

帝国主義こそ戦争の元凶

ウクライナ戦争の開戦から2月24日で2年。すでに死傷者は双方で50万人を超えている。ゼレンスキー大統領の「反転攻勢」も失敗し、戦争は泥沼化の一途だ。いまこそ「ウクライナ戦争をただちにやめろ！」「G7・NATOはウクライナへの軍事支援をやめろ！」「米NATOもロシアもウクライナから手を引け！」の声を大きくして立ち上がろう。

イスラエル支持のゼレンスキー

ゼレンスキーはイスラエル軍のガザ大空爆に対して即座に「イスラエルの自衛権支持」と表明した。世界の人々がパレスチナ連帯を訴えているにもかかわらず。ゼレンスキー大統領がいかにアメリカ・イスラエル寄りなのかをはっきりと示した。このことは、ウクライナ戦争の本質がアメリカ帝国主義・NATOによる対ロシア戦争であることと密接に関係している。

帝国主義こそ戦争と殺りくの元凶だ。1948年のイスラエル建国も、中東の石油支配をねらう米帝の世界政策だった。その後も米帝は一貫してイスラエルへの軍事的経済的支援を続け、イスラエル軍にパレスチナ抹殺攻撃をさせてきた。その結果、ネタニヤフ首相が、「ガザ地区」も「西岸地区」も消し去った地図で「新中東構想」を打ち出すに至った（昨年9月）。パレスチナ人民の「10・7蜂起」は、やむにやまれぬ命がけの反撃だった。

米帝の大没落が戦争を起こす

米帝の大没落こそが世界戦争情勢をうみだしている。世界の富を集中し、圧倒的軍事力をもつ米帝が第二



投石で抵抗するパレスチナの子供たち

次大戦後の世界を支配してきたが、その米帝が今や軍事的にも経済的にも中国に追い抜かれようとしている。その危機に直面した米帝は、2022年10月に「ロシアを抑えつけ中国を打ち負かす」という国家安全保障戦略を打ち出した。ウクライナを地獄の戦場にたたき込みながら、どんなに泥沼化してもロシアを弱体化する戦争としてどこまでも激化させようとしている。そして何よりも、「台湾有事」を口実にした中国侵略戦争を本気で準備している。

米帝の中国侵略戦争計画は、沖縄・南西諸島を最前線＝戦場にする。自衛隊や韓国軍が完全に米軍の一部になって最前線を担うことが前提の戦争計画だ。つまり、日本帝国主義の参戦なしにこの戦争は成り立たない。この米帝の要請に呼応する形で、岸田政権は軍事費2倍化の戦時国家体制に転換

した。沖縄・南西諸島をミサイル基地化し、中国侵略戦争訓練を強めている。他方で大浦湾の埋め立ての辺野古新基地建設を強行し、沖縄圧殺をねらっている。国産長射程ミサイルも量産体制に入り、米軍の新型中距離ミサイルの日本配備も進められようとしている。

日本の反戦闘争が未来を決する

日本の労働者人民の反戦決起が未来を決する。戦争の元凶である帝国主義を打倒しないかぎり未来はない。沖縄の闘いと連帯し、日帝の中国侵略戦争参戦を阻止しよう。

2月19日には「日ウクライナ経済復興推進会議」が予定されている。1月冒頭から上川外相がウクライナを訪問し、54億円の供与を表明した。ますますウクライナ参戦国化し、「復興ビジネス」にも参画しようとしている。戦争を金儲けにする帝国主義を今こそ打倒しよう。ガザ大虐殺を絶対にとめよう。「開戦2年。2・24新宿反戦デモ」に集まろう！



2.19「日ウクライナ復興会議」粉碎！